

4ー⑦

高学年の「心の成長」をみつめる

思春期は心身の成長がアンバランスな時期です。反抗期と時期を同じくしてやってくることもあり、不安を感じ不機嫌・イライラ・キレるといった行動につながることもあります。小学校高学年の子供をもつ親として、この時期に子供とどう向き合っていいたらよいかを考えます。

エピソード

「わたしって何」

幸恵のクラスでは、最近人気のテレビタレントの話題がよくでる。
「昨日の番組に出ていた芸人さん、おもしろいね。」
「『おまえこの世から去れ！』っていうギャク、最高だよ。」
たわいのない話ばかりだったが、友達と共通の話題で盛り上がるのが、楽しくて仕方がなかった。
お母さんは、少し心配しているようだった。
「まさか、友達を傷つけるようなことを言っていないわよね。」
「大丈夫よ。心配しないで。友達の悪口や人をけなしたりするようなことは言わないから。」
幸恵はきっぱりとお母さんにそう言った。余計な心配で楽しみをうばってほしくなかったからだ。
ある日のこと、幸恵が教室そうじをしていると、小さな封筒が落ちていた。「秘密」という文字が書かれていた。幸恵は、拾い上げた。読むのは悪いと思ったが、「秘密」の文字がどうしても気になった。そこで家に帰ったあと、自分の部屋でこっそり読んでみた。小さな紙切れに走り書きの文字がならんでいた。
「幸恵って、このごろ生意気だと思わない？気に入らないな。本当に『この世から去れ！』って感じ。(笑)」
幸恵はまさか自分のことが書かれているとは思わなかったので、一瞬目をうたがった。
しかし、何度読み返しても、書いてあるのは自分のことだった。今まで何気なく使っていた「この世から去れ」という言葉が心に鋭くつきささった。

幸恵の気持ち（Aの場面）

どのくらいの時間が過ぎたのか、窓の外はだいぶ暗くなっていた。ふと窓ぎわに飾ってある写真が目に入った。幸恵が生まれたばかりにとった写真だ。家族の真ん中で小さな自分が楽しそうにはしゃいでいる。お父さんもお母さんもうれしそうな顔で写っていた。幸恵は、その写真をしばらく見つめていた。
「幸恵、夕食の時間よ。」
お母さんが部屋をのぞきこんで声をかけた。その声を聞いて、幸恵は思いつめてカチカチに固まっていた心が少しほどけるような気がした。
「お母さん、わたしがいてよかった？」 思いもよらない言葉が幸恵の口から出てきた。

お父さん・お母さんがとった行動（Bの場面）

埼玉県教育委員会「家庭用 彩の国の道徳」（平成23年）より抜粋

ワーク 1

主人公は小学校高学年の幸恵です。エピソードを読んで考えましょう。

- ① A の場面で、幸恵はどんな気持ちになったでしょうか。



- ② グループ内で発表しましょう。

ワーク 2

エピソードを読んで、父親や母親の気持ちなどを考えましょう。

- ① B の場面で、母親はどんな言葉かけや行動をしたか考えてみましょう。

【幸恵に対して】

・
・
・

【母親に対して】

・
・

- ② 幸恵と母親のやり取りから「父親がどんな言葉かけや行動をしたか？」想像してみてください。

【幸恵に対して】

・
・
・

【母親に対して】

・
・



- ③ 小学校高学年の子供に対して、親としてどんな向き合い方をしたらいいと思いますか？
グループ内で話し合ってみましょう。

ワーク 3

高学年を迎える子供たちの特徴を考え、子供とどう向き合っていかが考えてみましょう。

- ① 次の資料を参考に「子供の自己肯定感や自立心を育てるために」親としてできることをあげてみましょう。特に、周囲の人との協力関係についても考えましょう。

資料

心も身体も大人へと向かう思春期

心も身体も大人ではないけれど、全くの子供でもない。

思春期とは、身体の成長に心の成長が追いつかず、だれもが不安定な気分になりやすい時期です。「私は何なのか」「私はどう生きたらいいのか」などと自分に直面し、自分を見る「もう一人の自分」が意識されるようになります。小さなことで有頂天になったり、逆にひどく傷ついて落ち込んでしまったりします。異性への興味が高まったり、親や先生がうっとうしく感じるようになり、自分だけの秘密を持ち始めます。

こうした心の変化に対し、身体では、体型全体の大人化が著しく進みます。女性では月経、男性で射精が始まります。また、抑えがたい性衝動が非行を含むさまざまな問題行動の原因へとつながることもあります。

まず、「思春期」について親がしっかりと理解を深めましょう。

この時期は、友達の影響を受けやすい。

思春期は仲間や友達の存在が、家族以上に重要になる時期でもあります。家族よりも友達同士のルールの方が大切になり、ときには親にうそをついてでも、友達同士のつながりを守ろうとすることもあります。それだけに友達からの影響は大きく、「いじめ」も問題になりやすいのです。

心配だからといって、子供の行動を監視したり、根ほり葉ほり話を聞き出そうとする必要はありませんが、普段からの会話を通じて、子供と友達の関係を理解するよう心がけましょう。

文部科学省「家庭教育手帳 イキイキ子育て」（平成22年）

- ② グループの中で話し合ってみましょう。

（用語解説）

自己肯定感とは、「自分はかけがえない存在なのだ。」と思える気持ちのことを言います。「自分のことが好き」という自己満足感、「私は私のままでいいんだ」という自己本来感、欠点や短所も含めありのままの自分を「これが自分なのだ」と受け入れる自己受容感、「自分は必要とされている、ここにいてもいいんだ」という自己有用感から成り立っています。

ふりかえり

- ① 何を学んだり、感じたりしましたか。



- ② 今後の生活にどのように生かしますか？

